



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月14日

上場会社名 ナイル株式会社 上場取引所 東
コード番号 5618 URL <https://nyle.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 飛翔
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 コーポレート本部本部長 (氏名) 長澤 斉 TEL 03 (6682) 9692
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績（2026年1月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	1,860	23.2	△30	—	△40	—	△39	—
2025年12月期第1四半期	1,510	—	△22	—	△31	—	△30	—

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 △39百万円 (—%) 2025年12月期第1四半期 △30百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	△4.57	—
2025年12月期第1四半期	△3.58	—

(注) 2024年12月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2025年12月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	3,004	406	12.9
2025年12月期	3,142	443	13.6

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 386百万円 2025年12月期 425百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の連結業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,500	11.4	3	—	△38	—	△74	—	△8.67
	～7,900	～17.4	～250	—	～211	—	～167	—	～19.56

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2026年12月期の連結業績予想については、レンジ形式により開示しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年12月期 1 Q	8,536,800株	2025年12月期	8,536,800株
② 期末自己株式数	2026年12月期 1 Q	ー株	2025年12月期	ー株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年12月期 1 Q	8,536,800株	2025年12月期 1 Q	8,536,800株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループは「幸せを、後世に。」のミッションの下、社会に根付く事業作りを通じ、時代を超えて人々の幸せに貢献します。また、豊かで幸せな未来を次の世代に紡いでいくため、ビジョンを「日本を変革する矢」とし、絶え間なき自己変革を繰り返しながら、日本を良くするための事業に挑戦し、日本のDX課題を解決する「産業DXカンパニー」として、各種事業を展開しております。

創業以来、当社グループはDX及びマーケティングを中心にインターネットを活用した各種技術・ノウハウを蓄積し、その強みを活用して、「自動車産業DX事業」及び「ホリゾンタルDX事業」を運営しております。今後も様々な領域で画期的な事業を創出し、デジタルマーケティングの知見を駆使した事業づくりを通じて、社会をより良く変えていくべく取り組んでまいります。

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善や賃金上昇に伴う個人消費の持ち直し、インバウンド需要の拡大などを背景に、緩やかな回復基調が継続しております。一方で、物価上昇の長期化や米国の通商政策の動向、国際情勢の不安定化など、景気の先行きについては引き続き注視する必要があります。

このような環境のなか、自動車産業DX事業においては、既存顧客による月額収益の積み上がりが継続するとともに、新規顧客獲得施策が奏功し、力強い売上成長を実現いたしました。ホリゾンタルDX事業においては、新規受注の拡大を背景に売上高は堅調に推移いたしました。全事業を通じて売上高の伸長及び費用の最適化を進め、通期黒字化に向け着実に進捗しております。

その結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,860,556千円（前年同期比23.2%増）、営業損失は30,885千円（前年同期は営業損失22,223千円）、経常損失は40,220千円（前年同期は経常損失31,385千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は39,030千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失30,559千円）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

①自動車産業DX事業

自動車産業DX事業は、当社グループのコアコンピタンスであるDX及びマーケティングの知見を活かし、非合理が多い車販売市場のDXを「オンライン」と「オフライン」の双方からアプローチすることで、自動車業界全体のDXを推進しております。当事業を通じて「自動車流通DXの経済圏」の形成を主導し、車を「買う・乗る・売る」までのカーライフサイクル全体を包括的に支援する体制を構築しております。

オンライン領域では、マイカーサブスクリプションの「カルモくん」を運営しております。「カーリースカルモくん」は、店舗を持たず全ての手続きをオンラインで完結できるスキームを構築し、個人向けに新車・中古車のカーリースを提供しています。マイカーを月額1万円台から持てる日本最安値水準の価格設計に加え、1年～11年の柔軟な契約期間、さらには車検・税金・メンテナンス費・自動車保険・故障保証など、ライフスタイルに応じた付帯サービスも定額で選択可能とすることで、LTVの最大化を実現しています。

ビジネスモデルとしては、初年度に広告宣伝費を投入して新規顧客を獲得し、契約時における初期紹介手数料としてスポット収益を計上することで、広告投資の即時回収を図っております。その後は契約期間中の月額課金により安定収益を得つつ、契約満了後の車両再リースや買い替えにより追加収益を得る、3層構造の収益モデルとなります。このモデルにより、広告投資の即時回収と、中長期的な月額収益の積み上げを両立しています。

また、当事業は長期契約と非常に低いカスタマーチャーンレートにより、契約残高が安定的に積み上がるビジネスモデルとなっており、蓄積された契約残高に基づき、将来にわたって継続的な売上創出が見込まれる強固な基盤を構築しております。

一方、オフライン領域では、連結子会社である株式会社パティオを通じて、地域密着の対面サポートや整備・板金機能といった実店舗ならではの安心感を提供しております。同社に対し、ナイル独自のDXやAIのアセットを注入することで、生産性と収益性を高める店舗経営へと深化させております。今後は、この「自動車販売店DXモデル」を全国の中古車販売店へ水平展開するロールアップ戦略を推進し、自動車流通における市場のアップデートを加速してまいります。

当第1四半期連結累計期間においては、既存顧客からの月額収益の積み上がりが継続するとともに、新規顧客獲得への先行投資及び顧客獲得効率の向上に努めた結果、大幅な増収を達成いたしました。また、月額収益の拡大及び費用の最適化が奏功し、セグメント損失が大幅に改善するなど収益改善トレンドが継続しております。加えて、新サービス「短期カーリースカルモくん」の販売を新たに開始し、収益機会の多様化に取り組んでおります。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は1,221,498千円（前年同期比31.3%増）、セグメント損失は64,661千円（前年同期はセグメント損失106,344千円）となりました。

②ホリゾンタルDX事業

ホリゾンタルDX事業は、創業以来培ってきたDXやデジタルマーケティングに関する技術・ノウハウを強みにして、顧客企業に対するコンサルティングサービスを軸にしつつ、生成AI活用支援やメディア運営、デジタル広告ソリューションなどを通じた包括的なサービスを展開しています。顧客の課題・ニーズに応じて、当社グループが持つソリューションを組み合わせ、戦略から実行まで一気通貫で支援を行っています。

また、2025年11月には、生成AI時代の深刻な実働人材不足という課題解決に向け、プロフェッショナル・ネットワークによる戦略実行支援サービス「Nyle X Partners」の提供を開始しました。

当第1四半期連結累計期間においては、コンサルティングサービスの拡充及びデジタル広告運用サービスの販売拡大が寄与し、売上高は堅調に推移いたしました。効率的な運営体制のもと、セグメント利益は全社の収益基盤を安定的に下支えしております。加えて、新サービス「Nyle AI Partners」の販売を新たに開始し、更なる収益創出に取り組んでおります。

この結果、当事業の経営成績は、売上高は639,057千円（前年同期比10.1%増）、セグメント利益は111,863千円（前年同期比34.4%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,491,811千円となり、前連結会計年度末に比べ120,400千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が171,151千円減少、売掛金及び契約資産が17,052千円増加、商品が40,234千円増加したことによるものであります。固定資産は512,449千円となり、前連結会計年度末に比べ17,607千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が3,508千円増加、無形固定資産が1,534千円減少、投資その他の資産が19,580千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,004,260千円となり、前連結会計年度末に比べ138,007千円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,513,304千円となり、前連結会計年度末に比べ49,834千円減少いたしました。これは主に短期借入金が80,050千円減少したことによるものであります。固定負債は1,084,936千円となり、前連結会計年度末に比べ50,224千円減少いたしました。これは主に長期借入金が49,439千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、2,598,240千円となり、前連結会計年度末に比べ100,059千円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は406,020千円となり、前連結会計年度末に比べ37,947千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失を39,030千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の連結業績予想につきましては、2026年2月13日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,225,454	1,054,303
売掛金及び契約資産	502,650	519,703
商品	551,117	591,352
その他	344,668	338,850
貸倒引当金	△11,680	△12,398
流動資産合計	2,612,211	2,491,811
固定資産		
有形固定資産	121,216	124,725
無形固定資産		
のれん	32,616	31,155
その他	745	670
無形固定資産合計	33,361	31,826
投資その他の資産	375,478	355,897
固定資産合計	530,056	512,449
資産合計	3,142,268	3,004,260
負債の部		
流動負債		
買掛金	134,716	130,856
短期借入金	329,900	249,850
1年内返済予定の長期借入金	510,109	505,126
未払法人税等	2,480	620
賞与引当金	22,734	14,310
その他	563,198	612,541
流動負債合計	1,563,138	1,513,304
固定負債		
長期借入金	1,113,236	1,063,797
資産除去債務	8,169	8,169
その他	13,755	12,969
固定負債合計	1,135,161	1,084,936
負債合計	2,698,299	2,598,240
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	596,582	596,582
利益剰余金	△180,634	△219,664
株主資本合計	425,948	386,917
新株予約権	18,020	19,102
純資産合計	443,968	406,020
負債純資産合計	3,142,268	3,004,260

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	1,510,558	1,860,556
売上原価	910,261	1,214,291
売上総利益	600,296	646,264
販売費及び一般管理費	622,520	677,150
営業損失(△)	△22,223	△30,885
営業外収益		
受取利息	506	1,395
その他	31	130
営業外収益合計	538	1,525
営業外費用		
支払利息	6,616	8,903
為替差損	27	1,742
支払手数料	3,000	—
その他	55	214
営業外費用合計	9,699	10,860
経常損失(△)	△31,385	△40,220
特別利益		
新株予約権戻入益	1,249	—
特別利益合計	1,249	—
税金等調整前四半期純損失(△)	△30,136	△40,220
法人税、住民税及び事業税	691	833
法人税等調整額	△268	△2,024
法人税等合計	423	△1,190
四半期純損失(△)	△30,559	△39,030
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△30,559	△39,030

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純損失 (△)	△30,559	△39,030
四半期包括利益	△30,559	△39,030
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△30,559	△39,030

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2025年1月1日至2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2.
	自動車産業 DX事業	ホリゾンタル DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	930,137	580,421	1,510,558	—	1,510,558
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	930,137	580,421	1,510,558	—	1,510,558
セグメント利益又は損失(△)	△106,344	170,522	64,177	△86,401	△22,223

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△86,401千円は、主に各報告セグメントに配分していない
全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2026年1月1日至2026年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1.	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2.
	自動車産業 DX事業	ホリゾンタル DX事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,221,498	639,057	1,860,556	—	1,860,556
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,221,498	639,057	1,860,556	—	1,860,556
セグメント利益又は損失(△)	△64,661	111,863	47,202	△78,088	△30,885

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△78,088千円は、主に各報告セグメントに配分していない
全社費用です。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2025年1月1日 至2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2026年1月1日 至2026年3月31日)
減価償却費	3,188千円	3,607千円
のれんの償却額	1,460	1,460